

尼崎市立若葉小学校 平成２７年度 学校評価

- 1

教育目標・めざす児童像

・若い芽を伸ばす子＝たくましく（強い体） ・考えを深め合う子＝かしこく（強い頭脳） ・場を美しく、心豊かな子＝やさしく（強い心）
- 2

めざす学校像

・わくわく心がはずむ楽しい学校 ・学習の基礎・基本をしっかり学習できる学校 ・地域の人々に親しまれる学校
- 3

めざす教師像

・愛情をもって、全ての子どもの可能性を開く教師 ・研修と研鑽に努め、人格と教育技能を磨く教師 ・家庭と地域に信頼される教師
- 4

本年度の重点取組

(1) 学力の向上 (2) 豊かな人間性の向上 (3) 健康の増進と体力の向上 (4) 保護者や地域に信頼され、活力に満ちた学校
- 5

本年度の研究テーマ

「自分の思いや考えを持ち、相手に伝わるように表現する子どもの育成をめざして」～伝え合う力（聞く・話す・話し合う）を育てる授業づくり～

学校関係者評価委員会について

委員：学校評議員 3 名
育友会長・副会長
学校：校長、教頭

開催：第 1 回 平成 27 年 6 月 8 日（月）
午後 6 時～ 7 時
若葉小学校 校長室
第 2 回 平成 28 年 3 月 3 日（木）
午前 10 時～11 時
若葉小学校 校長室

6 学校評価（自己評価及び学校関係者評価）

自己評価の基準	4：十分達成できた	3：達成できた	2：取り組んでいるが、成果は十分でない	1：取組が不十分である
関係者評価の基準	4：よく取り組んでおり、成果が大きい	3：熱心に取り組んでおり、今後が期待できる	2：取り組んでいるが、成果は十分でない	1：取組が不十分である

(1) 教育・学習内容を充実させ、確かな学力を身につけさせる

評 価 内 容	取組とその成果	自己評価	課題と改善策	学校関係者評価委員会での意見
授業改善の取組を促進するとともに家庭との連携により、学力向上を推進する	・新たな自主学習ノートの活用→家庭での学習習慣の定着、意欲の向上が見られる。 ・一人年間、1 回以上、指導案を作成、授業公開。→指導力の向上に繋がっている。 ・少人数授業。→きめ細かな指導により、児童の学力向上に繋がる。 ・サマースクールを実施。→約 9 割り児童が参加し、主に復習の充実に寄与した。 ・道徳教育を推進し、落ち着いた環境で学習。→教師の授業力向上と児童の徳を高めることに繋がった。 ・心の教育特別支援員による支援。→一人一人のニーズに応じた細かな支援ができています。 ・児童理解研修の定期的な開催。→児童理解や個々の支援に役立っている。	3.0	・統合後も、出来れば自主学習ノートの活用が進むよう、見本となるノートを定期的に廊下に掲示し、児童の意欲を高めていくようにする。 ・少人数担当が内容を見直し、作り直した算数プリントは、今後も継続して使えるものになった。 ・特別支援教育の啓発活動は、統合なので来年度は早めに実施できるよう計画する。 ・読書力向上担当の推進で、年間充実した図書の授業が行え、読書好きな児童が増えた。次年度も工夫し取り組んでいく。	・授業を大切に、子どもたちがわかりやすいように、いろいろな工夫がされている。来年度から統合となるが、一人一人を大切にした取り組みをぜひ続けて欲しい。 ・統合後も、出来れば自主学習ノートの活用を続けて欲しい。家庭学習の習慣づけと、児童の意欲を高めていくよう、家庭でも応援することが大切だと思う。
特別支援教育充実の取組を促進し、自立や社会参加に向けた主体性を育成する	校種間の連携 ・統合に向け、1 中 5 小の連携会議を計画し、実践。→円滑な統合繋がっている。 ・小中合同研修会の開催。→教員の連携が取りやすくなる。			（ 関係者評価：3.5 ）

(2) 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る

評 価 内 容	取組とその成果	自己評価	課題と改善策	学校関係者評価委員会での意見
道徳性育成の取組を促進し、思いやりに満ちた人間関係及び社会とのかかわりづくりに努める	・県の道徳教育副読本の計画的活用→学年段階に応じた指導の徹底が出来た。 ・全校なかよし集会→責任ときまりを学び、人権意識を高め、よりよい人間関係を築けた。 ・「人権・命」に関する講演会を実施する。→人権意識や道徳心をの向上を図り、豊かな人間性を育てている。 ・生徒指導部会を職員会議後に開催→情報の共有と組織で指導に取り組む体制ができる。 ・係や当番活動に取り組む→みんなの役に立ち、働く喜びを味わわせる。	3.3	・担任だけでなく、色々な先生方が相談・指導に関わる現在の環境は子どもにも保護者にも良かったので引き続き丁寧に関わっていく。 ・児童理解の場を設け、「全職員で全児童を見守る」という体制を徹底しているので、問題行動件数も少なく子どもたちも落ち着いている。 ・仲良し集会等の取り組みで、異学年児童がお互いに知り合いで、とても仲が良いことが今の若葉小の良さだと思う。来年度も大切にしていきたい。 ・遅刻・欠席の多い児童については、家庭事情や保護者の願いを十分くみ取り、引き続き家庭理解を得ながら進めていく事を大切にしてい	・いじめ等が社会問題となっているが、若葉小では道徳や、学校行事の取り組みを見ても、どの子も生き活きと活動している。体験活動を通して、児童の心が育っている。 ・統合で、子ども同士が仲良くなるような取り組みを、是非行って欲しい。
基本的生活習慣確立の取組を促進し、心身共に健全な育成を図る				
キャリア教育の取組を促進し、社会的自立に必要な能力を育成する				（ 関係者評価：4.0 ）

(3) 食育や体育を充実させ、健康な体づくりに取り組む

評 価 内 容	取組とその成果	自己評価	課題と改善策	学校関係者評価委員会での意見
食育を通して生活改善の取組を促進し、望ましい生活習慣を育成する	・若葉小、さわやか・清潔・健康年キャンペーン→ポスターや放送等で手洗い、うがい等の生活習慣を徹底し、望ましい生活習慣の確立をねらう。 ・チャレンジなわとびにエントリーする。→体力・持久力を育成する。 ・ジョギング大会を実施→進んで運動に取り組む意欲・体力の向上を図る。 ・保健だよりの発行→生活習慣や健康についての理解を深め、啓発をする。 ・給食試食会を行う。→食育の理解と関心を高める。	3.0	・外遊びの奨励をするに当たり、来年度は統合で児童数が増えるため、運動場の使い方についてルールを決めなければならない。 ・縄跳びか長縄跳び（他のものでも、仲良く楽しくできそうなもの）など、何か目標を持って取り組めれば、子どもたちも楽しみにしながらがんばり、体力も向上するのではと思う。 ・給食週間の取り組みは、委員会活動と組み合わせて充実していた。	・給食委員会の取り組みや、給食試食会は是非続けて欲しい。 ・来年度は統合で児童数が増えるため、外遊びのなど運動場の使い方について、安全面を考え、ルールを決めて欲しい。 ・長縄跳びなど、児童が仲良く楽しくできそうなものであれば、子どもたちも楽しみにしながらがんばり、体力も向上するのではと思う。 （ 関係者評価：3.5 ）
体育・スポーツ活動の取組を促進し、体力・運動能力の向上を図る				

(4) 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る

評 価 内 容	取組とその成果	自己評価	課題と改善策	学校関係者評価委員会での意見
安全教育の取組を促進し、登下校及び校内の安全確保を図る	登下校と安全教育 ・避難訓練、年3回の実施→「自分の身は自分で守る」防災に対する意識を高め、対処法の習得徹底をする。 ・不審者対応訓練の実施→警察の協力により、不審者侵入時を実際に想定した、職員の不審者対応についての意識・技能を高め、対処法の習得を徹底する。 ・登下校時における育友会の協力や、朝の職員の立ち当番の実施→児童の安全を守る。 ・災害対応マニュアル、不審者対応マニュアルの作成→緊急時の対応について、職員の共通理解を図る。	3.5	・積み重ねてきた防災訓練や映像・プリントなどの資料は大切な財産として統合後も引き継いでいく。 ・来年度は校区も広がり、登下校の児童の安全確保を最優先とし、地域見まもり隊の方と連携した取り組みが必要となる。 ・定期的な安全点検、計画的な防災訓練を行う事で「自分の身は自分で守る」という意識を、引き続き意識が高めてかなければならない。 ・実技を伴う、校内防犯訓練はとてもいい研修になった。来年は少しテーマを変えて取り組む。	・統合で校区が広がるので、登下校の児童の安全確保を最優先とし、地域見まもり隊の方と連携して取り組んでいただきたい。 ・計画的な防災訓練により「自分の身は自分で守る」という意識を、引き続き高めていって欲しい。 （ 関係者評価：4.0 ）
防災教育充実の取組を促進し、危機管理能力の向上を図る				

(5) 家庭・地域・学校の連携を深め、信頼され、活力に満ちた学校園づくりに取り組む

評 価 内 容	取組とその成果	自己評価	課題と改善策	学校関係者評価委員会での意見
教職員の資質向上の取組を促進し、学校の組織力及び教育水準の向上を図る	・サマースクールの実施→教師の専門性を生かし、資質向上を図る。児童の学習に対する関心・意欲の向上に努める。 ・校内外の各種研修・研究会に積極的に参加する。→自己研鑽に努め、一人一授業を実施することで、指導力向上を図る。開かれた学校づくり ・地域人材の活用→地域の母親による人形劇団を招聘し、本に興味をもつ児童を育成する。 ・授業参観・オープンスクール、児童会まつり等を実施する。→地域に学校の情報を発信し、地域の方が学校に足を運びやすい環境づくりの推進。	3.0	・ベテラン教員が気軽に相談に乗り、先頭に立って手本を示すことは若い教員へいい手本となっていく。 ・ボランティアの方々の、教室での関わりで、課題のある児童の支援をしてもらえたり、行事のお手伝いをしていただいたりと本当に助かった。 ・学校公開を推進し、統合ではあるが、日々の教育活動や学校行事について、教員が常に協力体制で進めていく事が必要となる。 ・統合で、大きく環境が変わるので、学習指導やクラス経営について何でも相談出来る風土作りが必要である。	・統合初年度は、学校公開を推進し、広く日々の教育活動や学校行事について、地域に公開して欲しい。 ・ボランティアの方々の関わりで、いろいろ支援をしてもらえることは、今後も続けて欲しい。 ・統合で、大きく環境が変わるので、何でも地域に相談して欲しい。出来る協力は地域としても行いたい。 （ 関係者評価：3.5 ）
地域資源活用 of 取組を促進し、開かれた学校園づくりを図る				

(6) 教育目標

評 価 内 容	取組とその成果	自己評価	課題と改善策	学校関係者評価委員会での意見
教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開	・朝の学習タイムを充実させ、音読・漢字・言語等習得のため、基礎基本の定着を図るとともに、読書力向上担当と連携し、毎木曜日の朝読書等、読書活動を推進する。 ・体を動かす楽しさや喜びを体感させ、休憩時間の外遊びや体育、スポーツ活動の充実を図る。(すもう大会、長縄跳び、ジョギング、マラソン大会) ・「教え、考えさせる指導」に重点をおき、教材教具、授業の組み立てを工夫し、「わかる授業」「力のつく授業」の展開にさらに努める。	3.0	・新しい学校の大きな目標は「安全な登下校」と「仲良く元気に」が中心となる。このねらいに向かって、すべての活動や行事を精選し、児童の発達段階に応じて、教員が共通理解のもと、バランス良く指導・支援していく。 ・自ら考え、解決使用とする指導に重点をおき、教材教具、授業の組み立てを工夫し、「わかる授業」「力のつく授業」の展開にさらに努める。 ・児童数は増えるが、特に児童理解をもとにした指導を大切にする。	・先生方が少ない人数でとても頑張って頂いており、感謝している。その成果がいろんな所に現れていると感じる。 ・統合年度の大きな目標「安全な登下校」と「仲良く元気に」に対して、全職員が共通理解のもと、取り組んで欲しい。 ・クラスごとの人数も増えるが「わかる授業」「力のつく授業」の充実に、さらに努めていただきたい。 （ 関係者評価：4.0 ）
教育目標の具現化と指導の充実				

(7)研究テーマ

評 価 内 容	取組とその成果	自己評価	課題と改善策	学校関係者評価委員会での意見
研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開	・国語科を研究の中心とし、研究推進委員会と全体研究会で取り組む→全校で統一し、系統立てた学習活動・指導を展開できる。	3.0	“言葉にし”のテーマは、統合後も引き継いでいけるよう、継続して様子を見てく必要がある。朝学習・自主学習・家での読書は、今後も丁寧に続けて効果を精査したいと考える。 ・1人1授業を工夫して実施し、事後のふり返りを大切にする。 ・統合後も、自主学習ノートが定着してきたように思うので、見直しながら継続していくとよい。 ・事後研究会が円滑に進むよう、研究授業参観前に、授業のポイント、見る視点などを、知らせておく。(指導助言者にも)	・朝学習・自主学習の取り組みをしていただき、家でも読書など習慣づくように応援したいと思う。 ・統合後も、児童が発表出来る場を、多く設定して欲しい。 (関係者評価：3.5)
研究テーマの具現化と指導の充実	・研究授業をの実施→事後研究等で講師を招聘し、研究テーマの具現化していく。			

※ その他の学校関係者評価 (A：優れている B：適切である C：おおむね適切である D：要改善)

アンケート等、自己評価の根拠となる資料は適切か	A
自己評価の結果の内容は適切か	A
自己評価の結果を踏まえた今後の改善策は適切か	B